

学びの多様化学校 学校経営方針 案

1 学校教育目標

自分の将来を自分らしく生きていく 「つながり」「(主体的な) 学び」「自己決定」

2 学校の重点目標

(1) 基礎的な学習内容の定着を図りながら「一人一人に応じた学びの過程」や「協働・共感」を基本とした「世田谷探究的な学び」を推進し、生徒の興味・関心に基づく多様な学びを実施する。

(2) 体験活動や異学年交流等、多様な人々との交流を通して、コミュニケーション力の育成を目指し、共に学び、共に育つことの大切さを実感し、社会の一員としての資質・能力の育成を図る。

(3) 自分たちの学校生活の充実や居心地のよさについて考え、自分らしさを見つけたり向き合ったりしながら自己理解・他者理解を深め、自分の人生を主体的にデザインできる力を育てる。

3 学習指導 –世田谷版 多様な学びの導入–

(1) 国語、教科「日本語」を言語活動の要とし、ことばの力の自覚とスキルを身に付けさせる。

(2) 数学、英語では、生徒自身が立てた学習計画をもとに、習熟に応じた自由進度学習に講義とコミュニケーションを組み合わせ、「好き」を認めて個性と基礎的な学力を伸ばす。「できた」「わかった」という成功体験を積み重ねられる工夫をする。

(3) 社会、理科では、生徒自身が立てた学習計画をもとに、自力解決と協働による探究と講義を組み合わせ、「好き」を認めて個性と学力を伸ばす。

(4) 保健体育では、健康と体力の維持、向上を図るとともに、あきらめないで取り組む態度を評価して、自信と自己肯定感などの非認知能力を育成する。レクリエーション・スポーツのモルックやピクトルボールなどを取り入れて、スポーツの楽しさを味わわせる。

(5) マイ・デザイン科では、実技教科の特質を組み合わせた選択的な計画により、自己表現活動、創作活動を通して芸術、文化などの才能を可能な限り伸ばす。また、農作業も含めた自然体験、職場体験などの社会体験を重視したキャリア教育を推進する。

(6) キャリア・デザイン科の「心のコンパス」では、相互理解、寛容、信頼、勇気、挑戦、幸福などの道徳的価値と人権について考え、議論する時間と質を確保する。他の人と協力、協働して自分の責任を果たす生徒会活動や学校行事を、生徒の特性に応じて柔軟に展開する。また、活動の振り返りを通して、メタ認知の習慣をつける。金銭、情報リテラシー、健康管理など、社会で自立して生きていくために必要な知識やスキルを高める。河口湖移動教室、修学旅行のほか、川場林間学校の実施を検討する。

(7) STEAM 科（3年生）では、技術、美術、社会、理科の学習を基盤に、「持続可能な社会」をテーマとして、生成 AI なども活用して総合的に探究する PBL を展開する。

(8) 学習に関する評価は、データと知見を組み合わせ、多面的、多角的に行う。生徒の成長や変化、変容を積極的に評価し、個人内評価も加味する。

(9) 異年齢集団による学習、教育活動を日常的に展開する。

(10) 個性やニーズに応じて、オンラインを活用した学習も日常的に行う。欠席時の学習補償として学習内容や解答をオンデマンドで進める。各種検定の支援も検討する。

(11) 1単位時時間を区切って休憩させたりフリータイムを設けたりするなど、状況に応じた対応をする。1スペースに多様な機能を持たせた授業展開を工夫する。

4 生活指導 –ダイバーシティ&インクルーシブな風土の醸成–

(1) 変化や変容を見逃さず、ほめて励ます指導を基本とする。

(2) 校則やチャイムのない環境によって、TPOの感覚を向上させる。

(3) 朝時間を活用して各自の目標をスモールステップで考え、学習と生活の見通しを持たせる。積極的にチャレンジすることを推奨し、支援する。

(4) 自由の意義を考えさせ、「みんなと違うのではない、みんな違うのだ」「自分自身を愛してほしい」をコンセンサスとして指導、支援する。

(5) 生徒の意見や要望を聞き、それらを生かす機会を可能な限り創出する。

(6) カウンセリング体制を充実する。教師やスタッフ、そして生徒同士が自由に対話する時間を設け、お互いの考えや気持ちを共有し、コミュニケーションスキルを自然に身に付ける。

(7) 心身の状況によって、休養日をつくることも可とする。

(8) 自転車の利用については、交通安全指導を計画的に行う。

5 進路指導 –自己理解と多様な進路選択の実現–

(1) 多様な進路についてのオリエンテーションと学びを系統的に進める。

(2) キャリア・パスポートを活用した相談や面談を通して、なりたい自分になるための支援を生徒に寄り添って指導する。

(3) 生徒のニーズに応じて国際交流や異文化理解のための教育活動を展開する。

6 その他

(1) 教科、学年、一斉授業などの既成概念をできる限り取り払った学校運営を進める。

(2) 放課後の自由活動として、生徒の興味関心に応じた活動をできる限り保証する。(例：鉄道、ダンス、軽音、eスポーツ、プログラミング、軽運動、写真、イラスト、マンガ、栽培など)

(3) 教室内での学習だけでなく、近隣の公園、図書館、地域の施設などを活用し、学びの場を広げる。地域の行事への参加や高校大学との連携による教育活動を積極的に推進し、「社会とつながる力」を醸成する。区立中学校連合行事への参加も進めていく。

(4) 朝の時間等を活用し、情報交換と個別の指導方針を教職員が常に共有する。

*この学校経営方針は、学校運営協議会での承認を経て施行する。